

1. 開会挨拶 国土交通省四国地方整備局 営繕部 営繕部長 山本 徹
(一社)日本空調衛生工事業協会 四国支部 支部長 森崎 敏彦

3. 議 題

①業界団体からの質問・要望 5 項目について
事務局が読み上げのうえ、項目毎に回答

②各地区からの現状・状況等について、各地区協会出席者が発表

③その他
営繕部より配付資料 1 件の説明

4. 山本部長 挨拶要旨

- ・ 営繕事業への協力謝辞
- ・ 防災・減災に向けての取り組み
- ・ 資材の高騰、労務者不足についての対応
- ・ 品確法改正への取り組み

忌憚のない意見をお願いしたいとのお話しをいただく

- ・一般土木Ｃランクの管内の業者が少ない地域に対して、地域維持の担い手確保を目的に、企業評価に県の工事成績を活用した試行工事である。
- ・評価方法は、徳島県の実績と直轄工事を同等に扱い、直轄工事の施工実績を持たない業者の受注機会を拡大するものである。
- ・今後は、今回の試行結果を基に検討していく。

意見・要望事項3 登録基幹技能者制度の評価・活用について

回 答

(石川課長)

- ・工事全体の品質管理上重要と考え、工事の総合評価において加点評価の対象としている。
- ・平成23年度から評価の試行を開始し、平成26年度からは全ての工種に拡大し平成27年度は主たる工種以外にも評価の適用を拡大している。
- ・各協会においては今後も、登録者数の増加をお願いしたい。

(森崎支部長)

関連質問 ・登録者数の目標数を示してほしい。登録者数の評価は可能か。

(石川課長)

その回答 ・目標数は示すことはできないが、ゼネコンにおいては、日当の割増しなど社会的な評価はされていると考える。

意見・要望事項4 設計労務単価の見直しについて

回 答

(森田課長補佐)

- ・設計労務単価については、本省にて今後の動向をみて検討している。
- ・四国地方整備局においては、「営繕積算方式」を採用し、現場の実態を反映するよう心がけている。

(栗本会長)

関連質問 ・経費の補正率を検討してほしい。小規模な工事については、実態に合わない。

(森田課長補佐)

その回答 ・小規模な工事については、労務費の割増しで対応している。

(森崎支部長)

関連質問 ・建設物価においては、大きな工事も小さな工事についても同じ金額であり、小さな工事では金額的に収まらない。

(森田課長補佐)

その回答 ・市場単価と見積単価を参考に対応している。

意見・要望事項5 若手技術者の入職促進について

回 答

(山田課長)

- ・四国地方整備局においては、「工事現場等見学ガイド」や「出前講座」をホームページに開設し、今後も若年者の入職に向けた広報活動や情報提供を進めていきたい。

(山本部長)

- ・ 現在施工中の南館についても今後、防災拠点・耐震についてPRしてきたい。

(山地会長)

- ・ 若い人が、建設業界に魅力を感じていないと思う。

(神原施設管理官)

- ・ 耐震改修等重要な改修施設を紹介し、建物を見てもらい。
- ・ 新しい技術の「見える化」を提供したい

(木下保全指導・監督室長)

- ・ 施設見学を可能な限りしていきたい。

(北川会長)

- ・ 工業高校生を対象とした現場見学会を実施している。女生徒が建設業に興味を持ち、将来女性の活躍を期待したい。

議題② 各地区からの現状・状況等について

(徳島) 栗本会長

- ・ 合同庁舎、総合病院、耐震工事もほぼ完了した。
- ・ 今後地方の業者がどうなるか不安である。
- ・ 検察庁の工事が予定されているが、大手とのJVは可能か。

(香川) 山地会長

- ・ 先行きが不安である。新規採用についても検討しなければいけない。
- ・ 中長期的に希望の持てるよう、県や市に対し意識を高めてほしい。

(愛媛) 土居副会長

- ・ 親子(中学生)を対象とした現場見学会や工業高校のマッチングフェアに参加、出前授業を実施した。
- ・ 地域によって民間工事の差がある。(※状況報告について追記あり)

(高知) 北川会長

- ・ 県内工業高校生はほとんどが進学し、県内に就職する生徒がいない。
- ・ 将来的に大型物件が計画されているが、人手不足となる。
- ・ 魅力的な建設業界を目指していかなければならない。

議題③ その他

(山本部長)

- ・ 現状として、どの年齢層が多いか。

(栗本会長)

- ・ 60 才以上が半分いる。50 才台が少しで高齢化している。

(山地会長)

- ・ 段階世代を再度雇用している。70 才を超えている。
- ・ 女性の雇用も検討したい。

(森崎支部長)

- ・ 毎年若い技術者を雇用していく業界にしていきたい。

(岩田副会長)

- ・ 中学生を対象とした現場見学会では、図面作成に興味を持っていた。

(武井支部長)

- ・ 雇用して 3 年で辞める人が多い。外国人労働者や女性技術者を雇用すること
も考える必要がある。

四国地整より周知事項

(石川課長)

- ・ 資料 2 「発信情報メールサービス」「入札説明書の読み方のポイント」について、
資料により説明

6. 閉会挨拶 (一社) 日本電設工業協会 四国支部 支部長 武井 邦夫

以上をもって、本日の会議を終了 (15 : 35) し散会した

平成 27 年 8 月 28 日

一般社団法人 日本空調衛生工事業協会 四国支部

事務局長

白川 好和 

一般社団法人 日本電設工業協会 四国支部

事務局長

大西 正夫 

※ 議題②

各地区からの現状、状況報告について（追）

- ① 建産連 主催（県の協力） 中学生とその保護者の現場見学、建設機械体験

8／19（中予） 8／20（南予） 8／21（中予） 実施

- ② 昨年より県下各工業高校、マッチングフェア実施

当協会も、5年前より実施している出前授業の関係で、協会として参加した

- ③ 人札総合評価において、若手技術者（30才未満）の現場配置に加点されている

- ④ 県の格付審査において、技術者（配管工等）、若年者雇用、女性雇用に加点される

- ⑤ 総合評価落札方式において、電気、管工事共2～3番札の業者の落札がみうけられる。

- ⑥ 仕事が忙しい業者とそうでない業者（いわゆる格差）
仕事の量の差 特に民間工事において地域差が目立つ（南予の仕事が少ない）

- ⑦ 建築業者が応札なしの場合（南予地域において）

再公告において（電気、設備）を含んだ物件が出てきている